



Heart Saving Project



認定特定非営利活動法人

ハートセービングプロジェクト

団体案内

2016年2月改訂版

世界のこどもたちの、救える命を救いたい。

この世に誕生した命は、国境を超えて等しく貴重です。

にもかかわらず、生まれついた国の医療事情や経済状態のために失われていく小さな命。

すべてはできないけれども、何か自分たちにできることはないだろうか。

日本の小児循環器医師のこの問いから、ハートセービングプロジェクトの活動は始まりました。

今、モンゴル国の先天性心疾患のこどもたちを無償で治療する活動を行っています。

ボランティア活動資金を募集しております。ご協力をお願い申し上げます。



事業内容

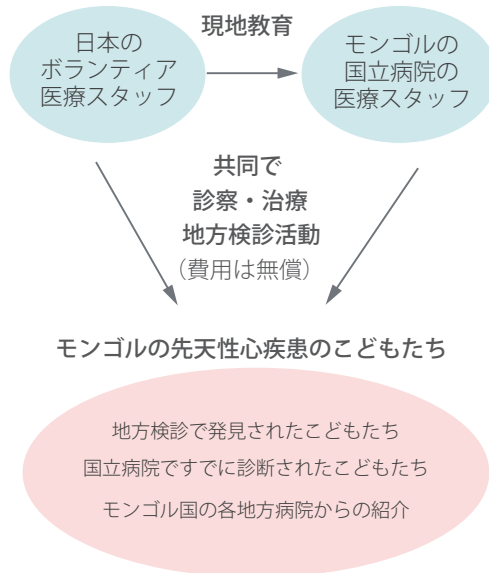
NPO 法人ハートセービングプロジェクト（略称 HSP）は、日本の小児循環器領域を中心とする医師、看護師、臨床工学士など医療スタッフが実施する、国際的な人道的医療活動を支援する非営利活動団体です。特定非営利活動法人の種類としては

- (1) 保健、医療又は福祉の増進を図る活動
- (2) 国際協力の活動 です。

事業は、「日本国内で支援する事業」、「現地で支援する事業」、「広報する事業」を三本柱としています。また事業収益に寄与することを目的に、イベント事業、物品販売事業を「その他の事業」として実施できることを定款で定めています。現在、モンゴル国で現地医療関係者と共に、先天性心疾患のこどもたちを無償で診察し治療する活動を行っています。

活動内容

モンゴル渡航治療プロジェクトの概要



医療スタッフの構成、国の制度の違い、資金的制約などから、主に小児の先天性心疾患の検診と、1回の治療で根治が期待できる疾患に限定してのカテーテル治療に特化した活動をモンゴル国で行っています。2001年の活動開始から2015年末まででのべ338名の医師、看護師、事務局を含むボランティアスタッフが日本から活動に参加しました。現地では日本からのスタッフだけでなく、モンゴル国立母子保健センターおよびモンゴル国立第三病院の現地医師、技師、看護師など現地医療関係者、受け入れ窓口としての現地NPO法人と共同で活動しています。モンゴル国はハード、ソフト共に医療の立ち後れが著しく、命を救う活動と同時に現地教育もハートセービングプロジェクトにとって重要な課題です。今後、モンゴル国だけでなく、医療の立ち遅れたほかの地域へも活動範囲を広げていきたいと考えています。

モンゴルでの活動拠点

ハートセービングプロジェクトはウランバートル市内にある「モンゴル国立母子保健センター」、「国立第三病院」の2ヶ所を活動拠点としています。地方検診は各県にある県立病院を中心に実施しています。

(1) モンゴル国立母子保健センター

1930年創立。モンゴル国内で唯一の三次周産期および小児医療施設。2011年現在、医師215名、看護師570名、スタッフ235名を抱えています。1日平均の入院患者は約90名、外来患者は約370名。全国から重症患者が紹介を受けて来院しています。全国の病院で先天性心疾患の疑いのある患児さんはここへ紹介されて集まって来ます。2014年11月院内に「心臓カテーテル・血管造影室」が完成したものの、心臓カテーテルの技術修得がようやく始まったばかりの状況で、今後のトレーニングが必要です。

(2) 国立第三病院

通称シャスティン病院。国内で唯一、脳神経外科と心臓血管外科をもつ病院。モンゴルでは小児・成人ともにこの病院で心臓の手術を受けます。ここには2013年秋に2室に増えた「心臓カテーテル・血管造影室」があり、成人に対する心臓カテーテルは検査・治療ともに実績を上げつつあります。しかしこの病院には小児循環器科がなく、小児に対する心臓カテーテルに関しては単純な疾患の検査はできても少し複雑な疾患の検査はできませんし、治療に関わることは一切できない、というのが現状です。

(3) 地方検診

毎回訪問先を事前に決め、連絡をとって県立病院を紹介してもらっています。県立病院には近年心エコー装置の設置が進んでいますが、操作ができていないため正確な診断ができません。県立病院にはわれわれが訪問する日時に合わせて患者さんに集まってもらい、持参したノートパソコン型ポータブル心エコー装置と現地のエコー機で診断しています。検診開始当初はエコー機による正しい診断がおもな役割でしたが、ごく最近ではエコー機による操作と診断の指導も大きな目的のひとつとなっています。



モンゴル国立母子保健センター



モンゴル国立第三病院



地方検診で機材を搬入する様子

活動実績（1）首都ウランバートルでの診察・治療実績

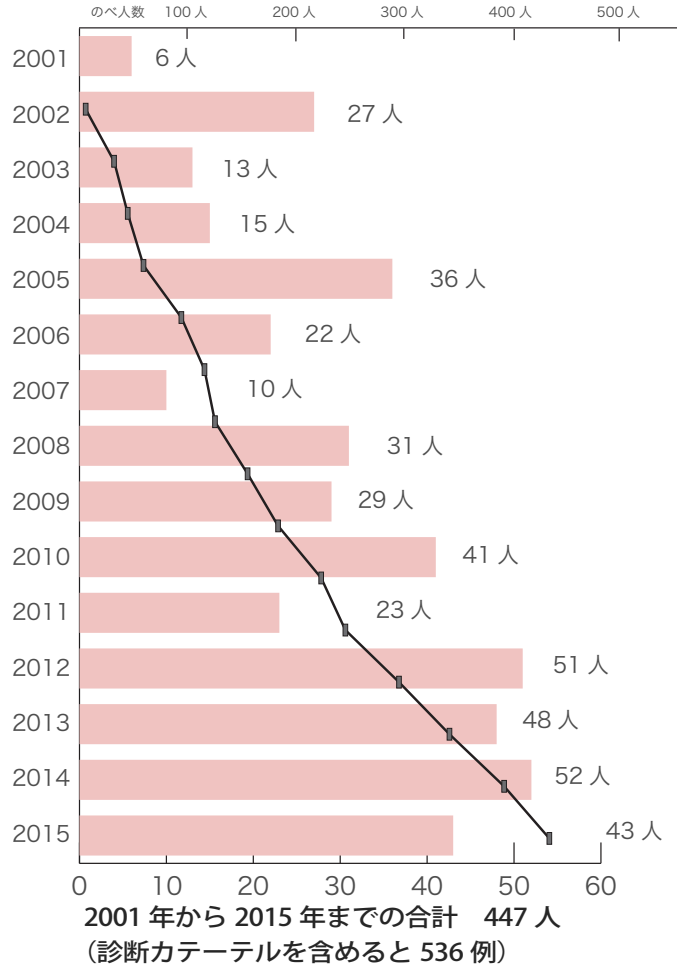
日本から参加する医療スタッフは、日ごろ日本全国の病院で勤務しており、活動参加時はモンゴルに集結します。2001年から2015年末までの14年間で、モンゴル国立母子健康センターと提携して実施した心エコーによる精査はのべ2419例となりました。また、モンゴル国立第三病院、2015年からはさらにモンゴル国立母子保健センターにおいて心カテーテル治療を実施し、このこの14年で447人が健康を回復しました。モンゴル国でハートセービングプロジェクトと共に活動しているモンゴル側の医療スタッフの診断レベルは徐々に向上しています。教育にも力を注ぎ、現地のボランティア通訳の協力を得て、モンゴル側医療スタッフを対象とした講義や症例検討会も実施しています。また日本で行われる小児循環器学会へ現地医師を招聘したり、2016年は日本の大学病院へ臨床修練医として実地研修を行う、といった教育事業も積極的に行っております。目の前の子どもの命を救いつつ、現地の医療レベルの向上をめざし、将来は現地医療スタッフが自立的に治療できるようになることを最終目標としています。



モンゴル国立母子保健センターに「カテ室」完成。しかし…

2015年11月、モンゴル国立母子保健センターに「心臓カテーテル・血管造影室」が完成。ハード面での用意は整いました。現地の医師は、日本の小児循環器医師、麻酔科医の指導のもと、共に治療カテーテル施術を経験してきましたが、年に2回、それぞれ1週間程度でしたので、自分たちだけで治療できるようになるまで、まだ多少の時間が必要と思われます。今後は現地医師の早急な自立的治療へ向けての教育体制とプログラムが重要と思われます。また、モンゴルでは高額医療である心カテーテル治療の費用がモンゴルの健康保険制度でどう扱うかといった課題もあります。

モンゴル渡航活動で実施した心カテーテル治療により健康を回復した子どもの数



モンゴルでこの活動を支えてくれている現地 NPO 法人「ABB Zurkh Khamagaalakh Tusul」



モンゴルの NPO 法人「Zurkh Khamagaalakh Tusul」のメンバー。「Zurkh Khamagaalakh Tusul」を訳すと「心臓を救う会」の意。日本のハートセービングプロジェクトの活動を口コミで知り、趣旨に賛同した人々で構成されている。活動に参加する際は休暇を取っての参加。それぞれの能力に適した仕事で貢献している。日本に留学経験のある人々は自ら通訳を申し出ている。モンゴルには医療通訳の制度はないが、彼らの通訳レベルは活動と共に成長し、医療通訳のレベルに達している。

現地での活動を支えてくれているのはモンゴルの NPO 法人「Zurkh Khamagaalakh Tusul」（ズルフ ハマガーラフ トゥスル）（代表 Buyannemekh Oyuntuya）です。日本人がモンゴルで医療活動をするために必要な一時医療行為資格の取得手続き、使用する機材の運搬にかかる非課税申請、使用する医療物資のモンゴル厚生省への届け出、現地調達の医療物資の手配、日本からの医療団の空港での出迎え、移動手段の確保、食事の手配、現地での活動拠点である病院でのモンゴル語と日本語の間の通訳、地方検診先の病院との事前打ち合わせなど、滞在時以外を含めてさまざまな業務を引き受けてくれています。彼らの支援があつてこそ、ハートセービングプロジェクトの活動が順調にできていることは、日本から参加したメンバーはみな実感しています。活動に際して「外注費」を支給していますが、実際には支払額の数倍の業務をこなしてくれています。彼らはみなこの活動の趣旨に賛同し、自らボランティアを買って出てくれています。

2001 年～2015 年 モンゴル国治療渡航のスタッフ人員構成と 国立母子保健センターで実施した心エコー診断数

実施日	日本側の人員構成	活動日数	心エコー 診断数
2001 年 10 月	小児循環器医師 2、臨床工学士 1	9 日間	—
2002 年 8 月	小児循環器医師 6、一般外科医 1、臨床工学士 1	7 日間	100 人
2002 年 12 月	小児循環器医師 5、臨床工学士 1	9 日間	—
2003 年 10 月	小児循環器医師 8、小児科医 1、臨床工学士 1、看護師 1、検査技師 1	9 日間	70 人
2004 年 7 月	小児循環器医師 7、臨床工学士 1、看護師 1、研修医 1、学生ボランティア 2	8 日間	80 人
2005 年 7 末～8 初	小児循環器医師 13、臨床工学士 1、看護師 1、検査技師 1、学生ボランティア 1、病院秘書 2	9 日間	130 人
2006 年 8 月	小児循環器医師 13、臨床工学士 1、看護師 1、検査技師 1、超音波検査士 1、研修医 1、事務局 1	6 日間	130 人
2007 年 8 月	小児循環器医師 9、臨床工学士 1、超音波検査士 1、事務局 1	6 日間	125 人
2008 年 8 月	小児循環器医師 16、看護師 1、学生ボランティア 3、事務局 2	のべ 14 日間	165 人
2009 年 9 月	小児循環器医師 7、事務局 2	7 日間	120 人
2009 年 10 月	小児循環器医師 4、看護師 1、臨床工学士 1、事務局 1	4 日間	—
2010 年 10 月	小児循環器医師 9、看護師 1、臨床工学士 1、事務局 1	7 日間	208 人
2010 年 12 月	小児循環器医師 5、看護師 1、ME 技師 1、学生ボランティア 1	4 日間	—
2011 年 11 月	小児循環器医師 7、麻酔科医師 2、臨床工学士 1、看護師 1、事務局 1	7 日間	72 人
2012 年 5 月	小児循環器医師 8、麻酔科医師 2、臨床工学士 1、看護師 1、事務局 1	7 日間	105 人
2012 年 11 月	小児循環器医師 8、麻酔科医師 2、臨床工学士 1、事務局 1、医学生ボランティア 1	6 日間	125 人
2013 年 5 月	小児循環器医師 9、麻酔科医師 3、臨床工学士 1、事務局 1	7 日間	118 人
2013 年 11 月	小児循環器医師 10、麻酔科医師 3、看護師 1、臨床工学士 1、事務局 1	8 日間	149 人
2014 年 5 月	小児循環器医師 7、麻酔科医師 4、事務局 1、臨床工学士 1、ボランティア 1	11 日間	166 人
2014 年 8 月	小児循環器医師 9、麻酔科医師 3、看護師 1、臨床工学士 1、事務局 1、監査 1	4 日間	94 人
2015 年 5 月	小児循環器医師 7、麻酔科医師 3、臨床工学士 1、事務局 1、記者 1、学生ボランティア 2	6 日間	164 人
2015 年 9 月	小児循環器医師 7、麻酔科医師 2、看護師 1、事務局 1	1 日間	50 人
2015 年 11 月	小児循環器医師 7、麻酔科医師 2、看護師 1、事務局 1	5 日間	133 人

活動実績（２）地方都市での検診



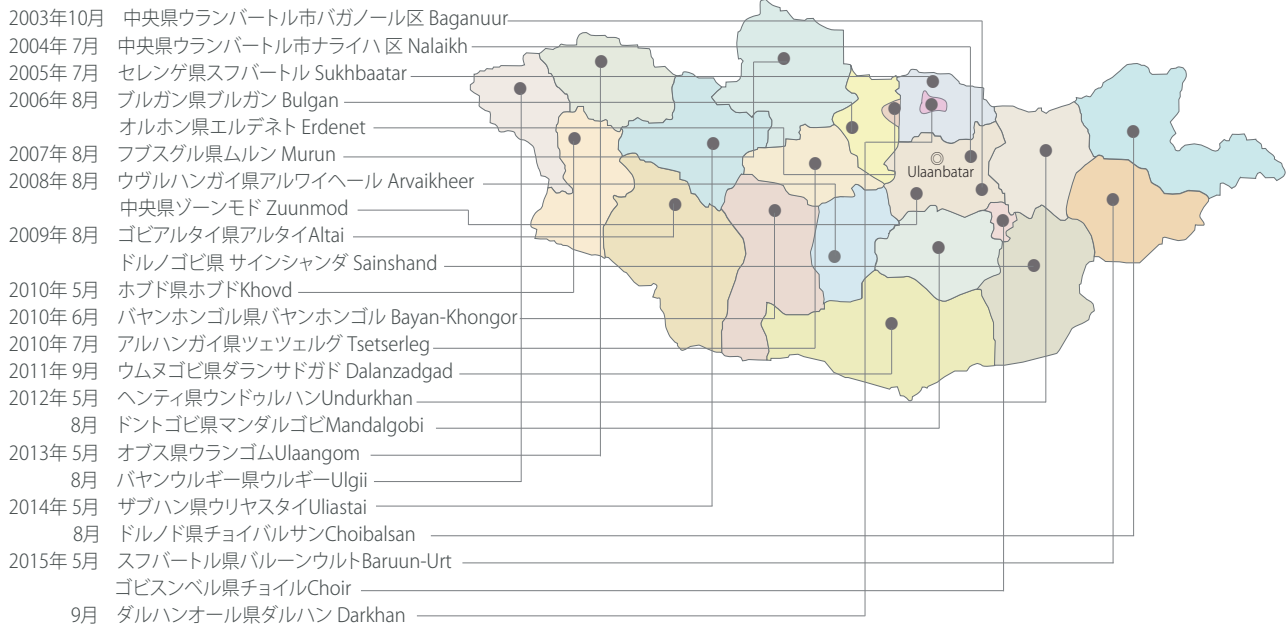
2003年から開始したモンゴル国での地方検診は、2015年12月現在で21県23市町村に及びます。日本人医師3～4名、検査技師・看護師・医学生1～2名、スタッフ2名程度で構成されたチームが、ポータブル心エコー装置を持参して各地へ向かいます。地方検診の実施場所は各県立の中央病院ですが、症状や聴診などにより循環器疾患が疑われたものの、それ以上の検査がされないままだった子どもたちを対象に検診します。各病院では時には100名を超える患者とその家族が待っており、平均滞在時間1～2泊、実質活動時間10時間超で対応しています。症例によっては首都ウランバートルの国立母子保健センターへの受診を勧め、その後の治療方針や治療時期などをハートセービングプロジェクトのカテーテル治療チームに引き継ぎます。2012年以降は県立病院に心エコー機の設置が進んでいますが、現地医師は使い方に不慣れなため使用していないケースが多々見受けられます。今後はその指導も行って行きます。

2003年～2015年実施 モンゴル国地方検診 来院者数

場所	人員構成 (日本側スタッフ)	所要時間 (移動含む)	検診時間	来院者数
中央県バガノール区	小児循環器医師3、看護師1、臨床工学士1	1泊2日	10時間	70人
中央県ナライハ区	小児循環器医師2、看護師1、学生ボランティア1	12時間	10時間	53人
セレンゲ県スフバートル	小児循環器医師2、研修医1、臨床工学士1、看護師1、超音波検査士1、事務局1	2泊3日	28時間	121人
ブルガン県	小児循環器医師2、研修医1、臨床工学士1、看護師1、超音波検査士1、事務局1	2泊(移動)	10時間	57人
オルホン県エルデネト	小児循環器医師2、研修医1、臨床工学士1、看護師1、超音波検査士1、事務局1	1泊	10時間	59人
フブスグル県ムルン	小児循環器医師3、学生ボランティア1	4泊5日	10時間	94人
ウヴルハンガイ県	小児循環器医師2、看護師1、臨床工学士1、学生ボランティア3	2泊3日	20時間	64人
中央県ゾーンモド	小児循環器医師2、看護師1、臨床工学士1、学生ボランティア3	20時間	4時間	21人
ゴビアルタイ県	小児循環器医師2、臨床工学士1、看護師1、事務局1	2泊3日	13時間	66人
ドルノゴビ県	小児循環器医師2、看護師4	2泊3日	10時間	93人
ホブド県	小児循環器医師3、学生ボランティア1、事務局1	2泊3日	13時間	205人
バヤンホンゴル県	小児循環器医師2、看護師2、事務局1	3泊4日	13時間	192人
アルハンガイ県	小児循環器医師3、看護師1、事務局1、学生ボランティア1	3泊4日	11時間	178人
ウムヌゴビ県	小児循環器医師4、臨床工学士1	2泊3日	20時間	120人
ヘンティ県	小児循環器医師2、看護師1、臨床工学士1	2泊3日	18時間	111人
ドントゴビ県	小児循環器医師3、研修医2、医療事務1	2泊3日	25時間	89人
オブス県	小児循環器医師3、臨床工学士1	2泊3日	18時間	149人
バヤンウルギー県	小児循環器医師3、臨床工学士1、看護師1、学生ボランティア1	2泊3日	18時間	100人
ザブハン県	小児循環器医師4、循環器内科医師1、臨床工学士1	2泊3日	16時間	124人
ドルノド県	小児循環器医師4、看護師1、ボランティア1	2泊3日	18時間	198人
スフバートル県	小児循環器医師3、循環器内科医師1、臨床工学士1、ジャーナリスト1	3泊4日	18時間	252人
ゴビスンベル県	小児循環器医師2、循環器内科医師1、学生ボランティア2	1泊2日	9時間	197人
ダルハンオール県	小児循環器医師3、看護師1、臨床工学士1、学生ボランティア1	2泊3日	13時間	201人

モンゴル国における地方検診実績

●=県庁所在地



ハートセービングプロジェクトのもうひとつのプロジェクト「救急車・消防車の寄贈サポート」



ハートセービングプロジェクトの会員である横綱日馬富士関のたつての希望で、日本の地方自治体から無償で譲り受けた救急車・消防車をモンゴル国内の団体へ寄贈する作業をサポートしています。これにかかる輸送費等の費用は、寄贈元である地方自治体と日馬富士関から紹介された寄附者からの目的限定寄附金によってまかなわれています。当初モンゴルで寄贈先を探したとき、「モンゴルにも救急車はある」と言われたことがありましたが、それまで走っていたのは、中にストレッチャーを入れることができるだけの空っぽの車でした。日本の救急車はモンゴルではその設備の充実度から、「動く病院のようだ」と驚かれています。

ハートセービングプロジェクトを通じてモンゴル国へ寄贈した救急車・消防車

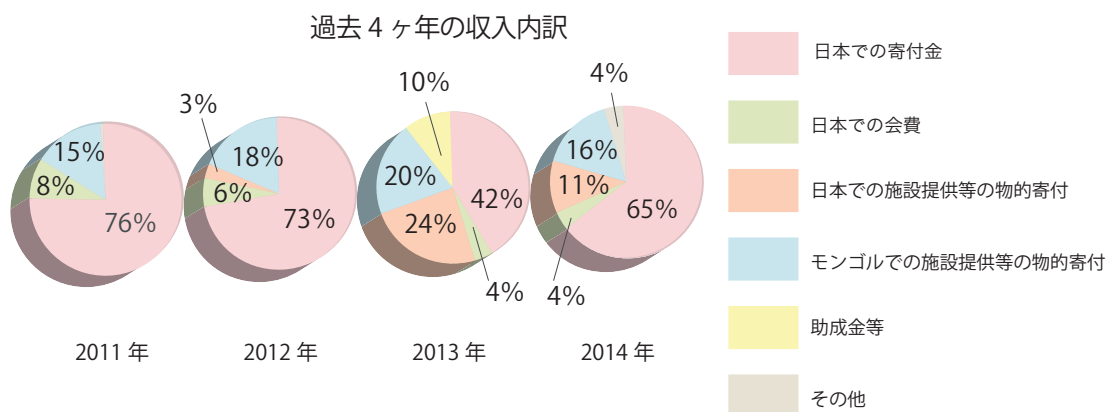
寄贈元	寄贈先	車種台数	日本での贈呈式
神奈川県厚木市	モンゴル国立母子健康センター	救急車 1 台	2012 年 4 月 5 日
神奈川県厚木市	モンゴル国非常事態庁	消防車 1 台	2012 年 4 月 5 日
神奈川県秦野市	ダルハン市第一病院	救急車 1 台	2012 年 10 月 10 日
福井県鯖江市	モンゴル国ウランバートル市検察大学	消防車 1 台	2013 年 2 月 27 日
兵庫県姫路市	ウランバートル市第 3 産科病院	救急車 2 台	2013 年 4 月 1 日
福井県鯖江市	モンゴル国立第 3 病院	救急車 1 台	2013 年 4 月 25 日
神奈川県秦野市	ウランバートル市第 2 産科病院	救急車 1 台	2014 年 10 月 17 日
広島県江田島市	ゴビアルタイ県総合病院	救急車 1 台	2014 年 11 月 24 日
広島県江田島市	モンゴル国非常事態庁ゴビアルタイ署	消防車 1 台	2014 年 11 月 24 日
福井県鯖江市	アルハンガイ県ハンガイ村中央病院	救急車 1 台	2014 年 11 月 24 日

活動資金

主な活動資金は、活動会員からの会費・寄付金と、活動を支援して下さるみなさまからの会費・寄付金です。2015 年期初時点での会員総数は 106 人です。会費は 5000 円一口（一口以上、一年ごとの更新）の年会費、寄付金は金額を問わず受け付けております。支援会員の中には大相撲で活躍する日馬富士関や朝赤龍関も加わっていますが、個人の方々からの小口の寄付金が収入の大部分となっています。

ハートセービングプロジェクトの人道的医療活動を支えるのは、みなさまからの善意のご寄付です。モンゴル国の先天性心疾患のこども 1 人分の治療にかかる医療関係の実費は、9 万 6000 円（2014 年をベースにした費用単純計算、人件費含まず）です。

皆様のご理解とご支援をお願い申し上げます。



過去 4 年のモンゴル国でのカテーテル実施件数と医療品 1 人当たり平均金額
(治療カテーテル、診断カテーテル合計)

実施年	治療カテーテル件数	診断カテーテル件数	購入医療品金額合計 (単位: 万円)	1 人当たり平均金額
2011 年	23 例	3 例	221 万円	8.5 万円
2012 年	51 例	6 例	415 万円	7.3 万円
2013 年	48 例	9 例	519 万円	9.1 万円
2014 年	52 例	4 例	542 万円	9.6 万円

※2012 年よりそれまで計上していなかったエーザイ株式会社様からの造影剤の物的寄付を計上しました。

過去 4 年の事業費に対する管理費の割合

事業年度	経常支出額 (単位: 万円)	事業費合計額 (単位: 万円)	管理費合計額 (単位: 万円)	経常支出に対する管理費の割合
2011 年度	943 万円	910 万円	33 万円	3.5%
2012 年度	1126 万円	1103 万円	23 万円	2%
2013 年度	1664 万円	1554 万円	110 万円	6.6%
2014 年度	1649 万円	1558 万円	90 万円	5.8%

※2012 年よりそれまで計上していなかった事務所家賃の物的寄付を計上しました。

法人 DATA

法人名 特定非営利活動法人ハートセービングプロジェクト
所在地 〒154-0002
東京都世田谷区下馬五丁目17番12号
電話番号 03 (3487) 9006
ファクシミリ 03 (3418) 0917
設立年月日 平成20年(2008年)9月5日

理事長



羽根田 紀幸 (どれみクリニック小児科 医師)

副理事長



富田 英 (昭和大学横浜市北部病院循環器センター 教授 医師)

理事



宇佐美 博幸 (宇佐美写真事務所 写真家)



檜垣 高史 (愛媛大学大学院医学系研究科地域小児・周産期学講座
教授 医師)



片岡 功一 (自治医科大学とちぎ子ども医療センター 医師)

公式HP

<http://heartsaving.org/>

銀行口座

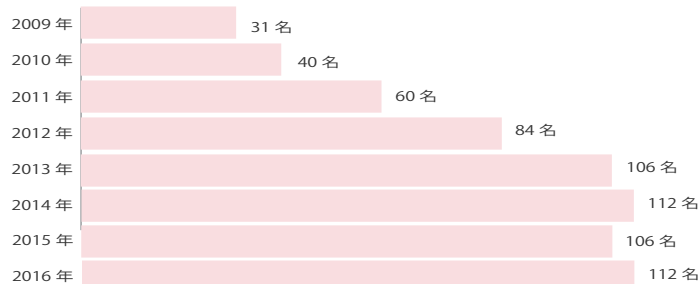
三菱東京UFJ銀行 祐天寺支店 普通預金 5095873
名義=特定非営利活動法人ハートセービングプロジェクト

ゆうちょ銀行 店番018 普通預金 7481249
名義=トクヒ) ハートセービングプロジェクト

※郵便局 払込取扱票でのご入金の場合
口座記号番号= 00160-2-546241

加入者名= NPO 法人ハートセービングプロジェクト

■ 会員数の伸び



■ 沿革

2001(平成13)年 10月	島根医科大学(現 島根大学医学部)小児科助教授であった羽根田紀幸(現 当団体理事長)がモンゴル国の留学生からモンゴル国での小児循環器治療の現状を聞き、渡航治療を決意する。小児循環器医師 黒江兼司氏、(株)カワニシの臨床工学士 矢野宏氏の計3名で医療団を結成、渡航治療を実施。これがモンゴル国初の小児カテーテル治療例となる
2001(平成13)年 10月	島根医科大学の研究支援機関であった財団法人島根難病研究所(現 公益財団法人ヘルスサイエンスセンター島根)より「公益性の高い国際医療ボランティア」として2011年6月30日までの期限付きプロジェクトの認定を受ける
2002(平成14)年	2008年まで年1回のペースでモンゴル国渡航治療活動を実施
2006(平成18)年 3月	理事長 羽根田紀幸がモンゴル国より「北極星勲章」受賞
2007(平成19)年 10月	事務局長 宇佐美博幸がモンゴル国より「北極星勲章」受賞
2008(平成20)年	この年より現地医療関係者への教育的観点から年複数の活動を決定。この年は7月から10月までに年間4班が活動
2008(平成20)年 9月	特定非営利活動法人ハートセービングプロジェクトを設立
2009(平成21)年 11月	副理事長 富田英がモンゴル国より「北極星勲章」受賞、当団体にて複数年ボランティア活動を行ったメンバー7名がモンゴル国厚生大臣賞を受賞
2010(平成22)年	5月から12月までに年間5班が活動
2011(平成23)年 11月	3月に発生した東日本大震災の影響で活動中止が危ぶまれたが、かろうじて1回の実施を実現
2012(平成24)年	理事 檜垣高史がモンゴル国より「北極星勲章」受賞、当団体にて複数年ボランティア活動を行ったメンバー8名が「ナイラムダル友好勲章」を受賞
2013(平成25)年6月	理事長 羽根田紀幸がモンゴル国での活動拠点のひとつであるモンゴル国立母子保健センターの名誉教授になる
2013(平成25)年7月	これまでの活動が評価されて日本国 外務省より外務大臣賞を受賞
2015(平成27)年4月	平成27年4月27日付けで東京都より認定NPOとして認定される ゴールデンウィークのモンゴル渡航治療活動中に、診断カテーテルを含めた心カテーテル術数500例の節目を数える

特定非営利活動法人ハートセービングプロジェクト

〒154-0002 東京都世田谷区下馬五丁目17番12号 tel.03(3487)9006 fax.03(3418)0917 公式HP <http://heartsaving.org/>